

ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI
DIGITAL
2014



RD.4 SUGO
+
SPECIAL INTERVIEW

ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI

Project

AUTOBACS  **AUTOBACS**  **AUT**



CLICK TO PLAY



ARTA DIGITAL CHANNEL

ARTA
AUTOBACS RACING TEAM AGURI

**DIGITAL
2014**

魔物の悪戯



BRIDGESTONE





ARTA 2014 RD.4 SUGO 「魔物の悪戯」

菅生の山々は、今も霧雨に煙っていた。

土曜日の予選は視界不良のために順延となり、日曜の朝に慌ただしく行なわれた。

8号車のARTA NSX CONCEPT-GTが6番グリッドについた今もなお、降ったりやんだりの難しい空模様が続いている。そんな空を見て、松浦孝亮は1年前のことを思い出していた。

彼の駆る8号車とGT300クラスを戦う55号車のARTA CR-Z GTは、1年前のここで菅生の魔物が降らせた雨を味方に付けてダブル優勝を果たしたのだ。

奇しくも、あの時もこの6番グリッドからのスタートだった。



「コーちゃん、得意なコンディションだね、これは！」鈴木亜久里監督が松浦に言う。ドライタイヤを履いてピットからグリッドに向かったが、路面の大半はまだ濡れていて用心が必要だった。しかし高速の最終コーナーだけはもう乾いている。ギリギリまで悩んだ末に、松浦とレースエンジニアの佐藤真治はドライタイヤを履いて決勝に臨むことを決めた。

「もう後は俺に任せて、大丈夫だから」なんとかなる。松浦は自分に言い聞かせるようにそう言いながらフォーメーションラップへと出て行った。しかしセーフティカー先導によるフォーメーションラップが始まると、不運にも雨脚が強まり始めた。

セーフティカー退いてレースの幕が上がった頃には、視界もかなり悪くなってきた。

「コースケ、タイヤはどんな感じ？大丈夫そう？」心配そうに無線で尋ねる亜久里監督に、松浦は「大丈夫じゃないけど、なんとかします」と答える。



しかし小高いメインストレートの周辺には霧雨の量が増してきている。

「メインストレートが一番見えにくいよ。ヤバい、降ってきたね。結構濡れてきた。

周りが入ったら入ろうか」ARTAのピットにはすでに、同じホンダ陣営の何チームかがウェットタイヤを用意してピットに呼び入れる準備をしているという情報がもたらされていた。

「じゃあ入ろう」わずか1周目のピットイン。

「もっと雨降れ〜！」松浦は雨を願ってそう叫ぶ。

ここで雨量が増せば、まだドライタイヤでステイアウトしている上位勢を喰うことだってできるかもしれない。

難しい天候を味方に付けることで1年前のような栄光を手に入れたい。

だが、今年は菅生の魔物はARTAの味方ではなかった。

雨脚はあっという間に弱まり、路面は乾いてくる。ウェットタイヤで走行を続けることはどんどん厳しくなってくる。



「もうタイヤが壊れてる。リアがもうズルズル」
これ以上走り続けても傷口が広がるだけ。そう判断した佐藤は、松浦をピットに呼び入れた。
「あ〜っ、クソッ！」10周目に再びピットインして最初に履いていたドライタイヤに戻す。
すでに上位と戦うチャンスは失われていた。
さらに不運は続き、29周目にはGT300クラスのマシンに追突され、右のリアフェンダーが大きく壊れてしまう。

「右のリアが接触してクルマの中がタイヤ臭いから、ひょっとしたら緊急ピットインするかもしれないからトニオも準備しておいて」松浦がそう報告するまでもなく、
ヴィタントニオ・リウッツィは急いでドライバー交代の準備を進めていた。
レースコントロールからはオレンジディスクのフラッグが提示され、壊れたフェンダーをピットインして修復せよとの指示が出ていた。



ステアリングを引き継いだリウッツィは、再び雨が降り出した61周目にピットインしてウェットタイヤに交換した矢先、急減速した目の前のマシンを避けきれず追突。

「ステアリングのLEDにTW HIGH、水を失ったって警告が出ているよ！」
フロントグリルのラジエターから冷却水が漏れ出し、8号車の冷却性能は徐々に失われてしまっていたのだ。

「冷却系のトラブルだ、スローダウンしてピットインしてくれ」
1年前の栄光の再現を密かに 期していた8号車のレースは、ここで終わった。

同じ頃、55号車も菅生の魔物に翻弄されていた。

スタートドライバーの高木真一は、ほとんどウェット走行データがなくセットアップが煮詰まっていないCR-Z GTに手を焼きながらも、朝の予選15番手から堅実にポジションを上げていく。



しかし、トラブルの魔の手は徐々に忍び寄ってきていた。

ブレーキング時にギアがスムーズにシフトダウンしてくれない。

「これはツライなあ……」

不安定な挙動を見せるマシンに手を焼き、他車に順位を明け渡す場面もあった。

「真一！ ダサいよ、今の抜かれ方は！」

エグゼクティブアドバイザーの土屋圭市が檄を飛ばすが、高木のせいではなかった。

「フロントがロックしてるんですよ、今のは。止まりきれないよ！」

38周目に7番手で小林崇志に交代して、いよいよ菅生の魔物は55号車を食いつぶしにかかっていた。

小林のペースが、明らかに遅い。マシンにトラブルが発生していることはもはや一目瞭然だった。

「エンジンが全然回らない！ 5速6速に入れるところがどんどん奥になってる」

コントロールライン上でも車速は209km/hまでしか伸びていない。



「全然パワーが上がらない。エンジンマップを換えても何も変わらない」
しかしピットでは手の施しようがなく、そのままの状態でチェッカーまで淡々と走り続けるより他に法はなかった。

「お疲れ様でした……」

16位でチェッカーを受け、ARTAの面々に笑顔はなかった。

ここまでの3戦で掴みかけた光明は、また遠のいた。

それが菅生の魔物の悪戯によるものなのか否か。

いや、自分たちは間違いなく前に進み、力を伸ばしている。

それを証明するために、次のレースがある。必ずやこの悔しさともどかしさを晴らしてみせる。

彼らは強い思いを胸に真夏の富士へと臨むのだ。



スペシャルインタビュー

AUTOBACS RACING TEAM AGURI 代表／監督 鈴木 亜久里

Q1:前半戦を振り返って

鈴木：今年からGT500はNSX CONCEPT GTに車両が変わり、ホンダ陣営として全体的に出遅れてしまった感はあるが、だいぶ良くなっていると感じている。

トラブルが発生し、なかなかレースを完走出来ない事があったが光が見えてきている。

GT300はオートポリスで優勝できたが、歯車が合えばもう少しいいそう雰囲気がある。

前半戦のに一勝出来た事は良かった。

中盤後半戦でシリーズチャンピオン争いに加わる事が出来そうだし、なかなかの滑り出しだと感じている。

スペシャルインタビュー

Q2：後半戦の豊富は？

鈴木：GT500はレース毎にNSX CONCEPT GTのエンジンや熱対策などのアップデートが進み、速くなってきている。中盤後半に向けて期待できるポジションに戻ってこれると感じている。

GT300は前戦の菅生ではCR-Z GTのアップデートが上手く行かなかったが、鈴鹿のテストで良いバランスが取れた。第五戦の富士からアップデートに期待している。

サーキット毎に得意不得意やタイヤのマッチングもあるが、マッチングさえ合えばトップ争いをして優勝する事が出来る。シリーズチャンピオンを目指して頑張りたい。

Q3：ファンに向けてメッセージをどうぞ！

鈴木：GT500は他のメーカに一步先行かれた感じがするがキャッチアップしてきているので、後半戦にむけて良いレースが出来るように頑張ります。

GT300はチャンピオン争いに加わり、最終戦までにチャンピオンを獲得したいと思っています。



AUTOBACS
8 AGURI
#8 AGURI



スペシャルインタビュー

エグゼクティブ・アドバイザー 土屋 圭市

Q1:前半戦を振り返って

土屋：CR-Z GTはFIA GTに対してストレートスピードでは負けていたが、第三戦オートポリスではコースとの相性も良かったので優勝する事が出来た。

前戦の菅生ではターボが壊れていたが、トラブルを抱えながらもドライバーが頑張ってくれて、良いタイムで走ってくれた。

トラブルがなければもっと良いポジションにいる事が出来る。

スペシャルインタビュー

Q2：後半戦の豊富は？

土屋： ドライバーとしてはモチベーションが高いので安心して見ていただける(笑)。

去年までは「もう少し真面目に走れよ」と激を飛ばしていたが、今年はプロレーシングドライバーらしい走りをしてきているので安心して見ていただける。

現在ランキング4位なのでトラブルさえ出なければシリーズチャンピオンをかけて争っていく事が出来る。メカニック・ドライバーもミスをせず、諦めずにプロらしさを見せて行きたい。

Q3：ファンに向けてメッセージをどうぞ！

土屋： ファンに支持してもらえる様なレースを毎戦魅せていきたい。

メカニック・ドライバーもそれを感じて欲しいので、嫌われてもムチを入れています！



スペシャルインタビュー

#8 ARTA NSX CONCEPT-GT ヴィタントニオ・リウッツィ

Q1:前半戦を振り返って

リウッツィ:興味深い前半戦だった。いくつかのトラブルやミスがあり、シーズンの開幕以来NSX CONCEPT GTの多くのポイントを改良してきた。

第三戦のオートポリスや前戦の菅生では良いポイントもあったが戦略的な問題もあった。

しかし、とても重要な後半戦を見据えた大きなステップになったと感じている。

Q2:日本のSUPER GTの印象は？

リウッツィ:とても楽しんでいる！チャンピオンシップ、チーム、ドライバーは驚くほど高いレベルで世界のレースと比べても簡単ではない。

来日する前の印象よりも日本のレベルはとても高いと感じている。



スペシャルインタビュー

Q3：ファンに向けてメッセージをどうぞ！

リウツィ：シーズンの終わりまで引き続き応援を宜しくお願いします！

後半戦も素晴らしいレースをお見せ出来る様に頑張ります！



スペシャルインタビュー

#8 ARTA NSX CONCEPT-GT 松浦 孝亮

Q1:前半戦を振り返って

松浦：少しトラブルが多い前半戦だったと感じている。

第二戦の富士、第三戦のオートポリスではトラブルが発生し、菅生では接触などのアクシデントが起きてしまった。少し流れが良くないが、前半戦を終えてNSX CONCEPTGTのポテンシャルも上がってきている。準備は出来たが流れが掴めていない状態だと感じている。

Q2：後半戦の豊富は？

松浦：ホンダの研究所・チームのみんなが頑張ってくれたので、マシンパフォーマンスが上がってきている。僕達ドライバーがしっかりとレースをし、うまく結果に繋げて表彰台を2・3回狙いたい。

スペシャルインタビュー

Q3：ファンに向けてメッセージをどうぞ！

松浦：前半戦はトラブルも多かったが、巻き返しの雰囲気になっているので表彰台を目指して頑張って行きたいです。





スペシャルインタビュー

#55 ARTA CR-Z GT 高木 真一

Q1:前半戦を振り返って

高木：今年は昨年優勝以外取れなかったので確実なレースを走るという事を心がけている。

まず開幕戦では6位に入賞し優勝以外のポイントが取れて良かったが、第二戦の富士では色々なトラブルが発生しポイントが取れなかった。

それを取り返す様に第三戦のオートポリスでは優勝する事が出来て良かった。

Q2:後半戦も優勝を狙えますか？

高木：当然、後半戦も勝利を狙っているがタイミング的な問題やウェイトを積んでいくので難しくなってくるだろう。しかしCR-Z GTのハイブリッドの良さ、ブリヂストンタイヤとのマッチングを上手く出して優勝を狙いたい。



スペシャルインタビュー

Q3：後半戦の豊富は？

高木：第五戦の富士を含め、全て表彰台を狙って必ず最終戦までにシリーズチャンピオンを獲得していきたい。

Q4：ファンに向けてメッセージをどうぞ！

高木：後半戦もしっかり頑張りますのでARTAを応援してください！



スペシャルインタビュー

#55 ARTA CR-Z GT 小林 崇志

Q1:前半戦を振り返って

小林：前半戦を終えて開幕戦ではポイントを獲得しオートポリスでは優勝する事が出来たが、それ以外の2戦はノーポイントで終わってしまった。

全戦でポイントを獲得するという目標には到達出来ていないが、1勝出来ているのでまずまずの前半戦だったと思う。

Q2：後半戦の豊富は？

小林：後半戦は全戦でポイントを獲得し、最終的にシリーズチャンピオンを獲得できる様に頑張りたい

スペシャルインタビュー

Q3：ファンに向けてメッセージをどうぞ！

小林：残り4戦ですが、精一杯戦ってシリーズチャンピオンを獲得できる様に頑張ります。

引き続き応援宜しくお願い致します！





RESULT

GT500



ARTA NSX CONCEPT-GT NO.8 ヴィタントニオ・リウッツィ / 松浦 孝亮

公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
6位	15位	15Laps	1'15.722	17位

GT300



ARTA CR-Z GT NO.55 高木 真一 / 小林 崇志

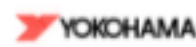
公式予選	決勝	TIME DIFF	BEST LAP	ドライバーズランキング
16位	16位	3Laps	1'21.889	4位



AUTOBACS Motorsports Conference

オートバックス モータースポーツ連絡協議会

【amsc参加企業】



株式会社アネブル	安全自動車株式会社	株式会社イサカ	株式会社ウェッズ	Fデザインオフィス	興工業株式会社	コアーズインターナショナル株式会社
株式会社サンコー	株式会社サンテック	株式会社ジーエス・ユアサバッテリー	株式会社湘南レオテック	株式会社錦織	日星工業株式会社	株式会社バンザイ
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン	ブリッド株式会社	株式会社ホットスタッフコーポレーション	三菱重工業株式会社	株式会社ユビテル	株式会社ワップ	

2014年2月28日現在会員企業

amsc (AUTOBACS Motorsports Conference) とは株式会社オートバックスセブンを中心に、自動車用品関連企業約100社が参加する任意団体であり、モータースポーツを核として「世界中のドライバーを車好きに変える」為に、自動車関連マーケット全体の活性化を目的とした団体です。将来的には、日本のモータースポーツ文化の発展と新たなカーライフ文化の創造に貢献していきたいと考えております。



Thank You for Supporting

Samantha Thavasa Japan Limited

case play

ARTA GALS



Thank You for Supporting
Calm Flower



株式会社オートバックスセブン



ARTA Project



ARTA DIGITAL
Youtubeチャンネル

To be continued next race.....

ZERO
BORDER
Team ZEROBORDER

Copyright c2014 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA
Text : Mineoki YONEYA
Design and Web Creator : Akira YOSHIDA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO.,LTD